

# 高梁川流域情報ネットワークでの 4 K 共同制作番組の取り組みについて

平成30年11月29日

玉島テレビ放送株式会社  
取締役 平井 俊光

# 高梁川流域情報ネットワーク(TIN)とは

倉敷市を中心とした高梁川流域連携中枢都市圏として、倉敷市、浅口市、里庄町、笠岡市、井原市、新見市、高梁市、矢掛町、総社市、早島町が連携協定を締結したことを受けて、当該エリアで展開するケーブルテレビ局、コミュニティFM局が平成27年3月に設立した協議会

## ○構成局

矢掛放送(会長局)、笠岡放送、井原放送、吉備ケーブルテレビ、倉敷ケーブルテレビ、エフエムくらしき、エフエムゆめウエーブ、玉島テレビ放送

※CATV加入世帯数 166千世帯

## ○目的

高梁川流域でコミュニティ放送を行うケーブルテレビとコミュニティFMによって組織され、高梁川流域における豊かな市民生活を育むために情報化とネットワーク提供に資することを目的とする。



地図：高梁川流域観光(倉敷観光Web内)より  
<https://www.kurashiki-tabi.jp/ryuiki/>

# 高梁川流域情報ネットワーク(TIN)の主な事業

---

## ①高梁川流域デジタルアーカイブ事業

倉敷市（連携中枢都市圏）からの委託事業

高梁川流域圏の土地に根付く風習・自然・建築・工芸・食文化などを紹介  
映像コンテンツ20本(5分尺)/年(H27, H28, H29)で60本制作

YouTubeに公開。各自治体からリンク

<https://www.youtube.com/channel/UCK2o97DV6ttKm40yqIX5-uA>

## ②山田方谷ビデオ制作

山田方谷の軌跡実行委員会からの委託事業

人物編(5分x6本)、観光編15分を作成

## ③高梁川流域の起業人

倉敷市（連携中枢都市圏）からの委託事業

高梁川流域で活躍する起業家を対象に、起業のきっかけ、経歴、経営状況  
などを聴く番組。

映像コンテンツ12本(5分尺)を作成

# 番組：備中ひと・風・景～高梁川流域百選

高梁川とその支流に育まれた岡山県備中地域で、次の世代へと伝えたい風景をたどります。山陽新聞倉敷本社と、県備中県民局管内（倉敷、笠岡、井原、総社、高梁、新見、浅口市と早島、里庄、矢掛町）のケーブルテレビ局、コミュニティーFM局との連動企画。

山陽新聞の高梁川流域の読者に呼びかけ、百選に推薦したいひと、風景を募集し新聞記事に。

山陽新聞の記事を基に、CATV局が番組を制作（5分もの）。およそ2年で100話制作をめざし進行中。（2017/5～2018/11で52本制作）

youTube「山陽新聞デジタル【さんデジ】」で公開中。

[https://www.youtube.com/playlist?list=PLqGWtc\\_JO1HQtV6GTQN8ZnCsUi6NxGHxQ](https://www.youtube.com/playlist?list=PLqGWtc_JO1HQtV6GTQN8ZnCsUi6NxGHxQ)



山陽新聞 平成30年11月16日(金)朝刊 高梁・新見圏版より  
※倉敷・総社圏版、笠岡・井原・浅口圏版へは17日(金)朝刊に掲載

# 番組：備中ひと・風・景～高梁川流域百選

番組企画は平成28年3月に発案。

高梁川流域デジタルアーカイブとは少し違う視点で視聴者参加、山陽新聞社とのコンテンツ連携をねらった企画。

10月から取材・制作開始、平成29年4月に連載/放送開始。

SNSでの拡散もねらい、ショート動画で制作することを先に決めていた。



## ○番組の特徴

- ・ 地域資産のアーカイブ的番組
- ・ 5分尺で持ち回り共同制作である（労務量は限定的）
- ・ 100話完結で、およそ2年と終わりが決まっている番組。
- ・ 納期の決まった中で制作する実践的機會

⇒ 4Kでの番組制作に取り組む格好の番組との感触

⇒ 機材の揃えや、労務量の事情から努力目標として4K制作を申し合わせ。

⇒ 4局が取り組み。（倉敷ケーブルテレビ、井原放送、吉備ケーブルテレビ、玉島テレビ放送）

## 4 K制作をやってみて（4局アンケート）

---

4 K制作に取り組んだ4局の担当者にアンケートを実施。

Q1-1 4 Kカメラの導入のきっかけ

a) 事前に導入済み、 b) 番組企画に合わせて導入

Q1-2 4 Kカメラは普段の取材・収録にも使っているか？

a) 使っている、 b) 用途を絞って使っている、 c) あまり使わない

Q1-3 上記の理由

Q1-4 4 K撮影において得られた知見

Q2-1 4 K編集機の導入のきっかけ

a) 既導入の編集機が4 K対応、 b) 番組企画に合わせて導入

Q2-2 4 K編集機のスペック

Q2-3 4 K番組の編集は2 K番組の編集に比べてどうか？

a) 快適に作業できた、 b) まったく遅くて大変だった、  
c) 編集方法によってはストレスを感じた

Q2-4 4 K編集において得られて知見

Q3-1 今後の4 Kカメラ/4 K編集機の活用について

Q3-2 上記の回答理由

Q4 高梁川流域百選の4 K番組制作を通じての感想、気づき、課題など

## 4 K制作をやってみて（4局アンケート）

---

Q1-1 4 Kカメラの導入のきっかけ

- a) 事前に導入済み 1局
- b) 番組企画に合わせて導入 3局

Q1-2 4 Kカメラは普段の取材・収録にも使っているか？

- a) 使っている 1局
- b) 用途を絞って使っている 3局
- c) あまり使わない

Q1-3 上記の理由:

回答a)

- ・ 高画質なHDカメラとして活用

回答b)

- ・ 今後の映像利用やアーカイブ価値のあると判断した素材について4 Kでの取材を行っている。
- ・ 4 K素材が扱える編集機が少なく物理的な制限がある。
- ・ 4 K機器に対するスタッフの取扱熟度が低いため
- ・ 動画ファイルが大きくなるため、保存などの環境が整っていない

## 4 K制作をやってみて（4局アンケート）

---

Q2-1 4 K編集機の導入のきっかけ

- a) 既導入の編集機が4 K対応 2局
- b) 番組企画に合わせて導入 2局

Q2-2 4 K編集機のスペック

EDIUS 7 x 2局、EDIUS 8 x 2局

Windows 7, メモリ64GB 3局、32GB 1局

CPU: (A) xeon E5-2680 v3@2.5GHz

(B) xeon E5-2680 v4@2.4GHz

Q2-3 4 K番組の編集は2 K番組の編集に比べてどうか？

- a) 快適に作業できた CPU(A)
- b) まったく遅くて大変だった
- c) 編集方法によってはストレスを感じた CPU(A), CPU(B)

※注：編集機スペックによって操作感が変わるかどうかを確認できるかどうかを評価したかったが、スペックはほぼ同等だった。  
編集で使う機能、処理の違いが操作感の違いになったと思われる。

## 4 K制作をやってみて（4局アンケート）

---

### Q1-4 4 K撮影において得られた知見

- ・フォーカスとアイリス(絞り)はシビア。SD⇒HD⇒4Kとだんだんシビアになってきている。おおざっぱな撮り方ができなくなってきた。
- ・アイリスがアンダーでもそこそこ高精細に撮ることができる。
- ・激しいカメラワークは避ける。ピント調整には細心の注意が必要。  
（パンとかズームをせず、）できるだけFIXで撮るとよい。
- ・高解像と大判センサーのため、被写体深度が深く、撮影自体に技術が必要。
- ・ダウンコンバート後の映像も美しく、視聴者へ「違い」を提供できる。

### Q2-4 4 K編集において得られて知見

- ・素材の読み込み、編集作業、プレビューいずれにおいても時間がかかる。  
NVMe接続SSDに素材を格納している場合は比較的高速だが容量が不足。
- ・色彩に関して自由度が高く（カラグレ）表現の幅が広まった。
- ・グレーディングは必要な個所のみにする（時間がかかる）。
- ・HDに比べ、1カットを長めにしても十分見ることができる。
- ・データが大容量になるため、取り込みや編集に時間がかかる。
- ・編集時はダウンコンした画を見ながらになり重い。現状のPCだとつらい。
- ・ピクチャーinピクチャー編集は重すぎる。

## 4 K制作をやってみて（4局アンケート）

Q3-1 今後の4 Kカメラ/4 K編集機の活用について（複数回答）

- a) 積極的に4 K番組の作成をおこなっていく 1局
- b) 将来に残したい映像は4 Kで収録していく 4局
- c) 高梁川流域百選以外での4 K撮影、4 K編集の計画はない

Q3-2 上記の回答理由

回答a)

- ・ケーブルテレビ4 K専門チャンネル「ケーブル4 K」への定期出稿を通じ、地域の魅力を全国に発信するため。
- ・コミチャン4 K化も見据え、4 K番組ライブラリーの充実を図るため。

回答b)

- ・流域百選以外に、通常ニュース20本程度、ミニ特集30本程度、ドキュメンタリー番組2本を制作した。その他アーカイブしたい映像を残そうとしているが、通常業務に絡めることが難しく、特別に撮影を行う回数は少ない。今後も通常業務に混ぜていきたい。
- ・現状はコミチャンで放送できない。早めに地域資産の4 K映像ストックを増やしたい(4 Kドローン映像は再利用回数が増えてきている)。
- ・大容量データの管理ができる状況にないため積極活用は難しい。今後のために、できる範囲で活用を進めていきたい。

## 4 K制作をやってみて（4局アンケート）

---

Q4 高梁川流域百選の4 K番組制作を通じての感想、気づき、課題など

- ・編集面において、データの保管や処理にハードルが高い。
- ・4 K画質を活かした撮り方、つなげ方はまだまだある。模索中。
- ・地域の今を、高精細な映像で記録することはよいことだとおもう。
- ・実際に放映できる環境が整っていないため、4 K制作の実感はあまりない。
- ・この企画が4 K制作に取り組むきっかけとなっているので、今後につなげていきたい。
- ・高梁川流域百選で候補として挙がったもの（特にイベントなど）については4 K映像を保有していないものが多々あるため、今後は4 K素材として記録していく必要性を感じた。
- ・（高梁川流域百選を制作する）全局4 K撮影で制作することが出来ればシリーズ自体の価値が向上すると感じる。  
これまでの2 K素材もアップコンして是非、4 Kシリーズとして評価してもらえれば。

## 4 K番組制作チャレンジ まとめ

---

- 映像については、「違いを実感」。HDにダウンコンしてもきれい。
  - ⇒ 大判CCDの効果。
  - ⇒ 4Kカメラを高画質なHDカメラとして活用するのはよい。
- きれいに撮るためのコツがある。
  - フォーカス、アイリスがシビア。カメラを動かさないで撮る。
  - ⇒ あらかじめ画角を決めて、じっくり撮る。
  - ⇒ 番組の構成、種類によって適・不適があるか。
  - 4Kを活かした番組の作り方は研究の余地あり。
- 取り扱うデータ量が大きいいため、現状の編集機、ストレージでは編集作業のストレスが高く、時間もかかる。
  - ⇒ NVMe接続で大容量のSSDを使う、CPU、メモリをふんだんに。
  - ⇒ 定常的に番組制作をしていくためには、経営側（設備投資）も現場（収録、編集）も今以上の投資が必要。
- ケーブルテレビ局の現状では、映像ストックが主体。
  - 手軽に放送できる場、4Kで視られる環境が整うまでは、全面的に取り組むということは難しく、用途を絞った扱い。

ご清聴ありがとうございました。

---

